

## 内牧湯浦郷 里山保全の形態

### 里山の人々の暮らし

村の人々は、住む環境を基に暮らしやすい道路を拠点に住まいを構え、地域の共同体を基本に村が構築され暮らしている。

主還道路を挟み、生活の拠点は水田と里山に分別される。水田を潤す小川が走り何れも山からの湧水であり、清らかな水で有り クレソンや芹も育ちトンボやホタル 沢蟹等が生息している環境である。

一方住居の廻りを観察すると、農家が通常に活用できる食文化の基本的な食材が家の廻りに集約されている。

自然の中での「フキ ミョウガ ノヒル サンショウ (香辛料) ユキノシタ (てんぷら) 用 クマザサ (団子包み) 等が植えてあり 小川には芹 クレソンや淡水魚等も季節的に採取出来るシステムが施されており、何時でも食卓に賑いを見せる様に工夫がされ。身近な食の文化がここにも生されている。

屋敷内には防火 防風を兼ねた竹藪が存在して、季節的には(筍)を食べ 副産物の竹の皮は(おにぎり)を包む材として 竹は各種の農具の材等にも活用される事が多い 何れも身近な所に資源が存在している、これも先人の偉大な知恵である。

民俗学的にも面白い傾向がある 例えば家の前に檜の木を植え「前檜」として金銭的な縁起を担ぎ伝統の「しきたり」を重んじて来た 前柿 前にかき集めるの意味 裏庭に 栗の木を植え裏栗等と称し金銭を裏ぐって行く等の意味があり、その樹木は大切に保護されているのが田舎の特徴でもある。

ヒイラギを屋敷内に植え「魔除け」や南天は便所の横に植え「難を逃れる」等日常生活の中に縁起を占った物も多い。

屋敷の裏手には畑地があり随時自家用の野菜が調達出来工夫がなされ 畑地の周りは果樹の梅 栗 柿 ヒワ ユズ等が植栽され、一部にはお茶の木が栽培され必需品が近くで調達出来るシステムがなされ効率的な生活の一環が見えてくる。

畑地の上段には、杉林が確保され、科学燃料の普及する前は カマドの炊き付け薪の調達に一番用途が深く、薪を持ち帰るにも近距離で有り、便利な地形が確保されている。

その上段には、檜の植林がなされて居り、檜は葉が小さく落ちやすいので、炊き付けの用途には不向きである、檜は枝打ちや間伐材での利用は火持ちが良く、最高の薪材として調達される。

この様に、暮らしの中に木の素材を生かした植林の方法にも感心させられる。

杉林や檜林の木陰では湿度を好む「椎茸」の栽培がなされ、野性の山芋等も自然から与えられ一つも無駄がない、又自然に生息した柏の木も一部では残され、農具の柄の材として活用され効率よく利用されている。

杉 檜林は集落の防風林の役目も果たして居り、又野鳥や昆虫の住みかとも成り総合的な自然環境の保護の役割の一部を担っている。檜林の上が放牧場の草原で有り クヌギ コナラ ナラ等が植林され水を保全し、夏場は牛馬の木陰を作り 休息の場を提供している この様な樹種は野焼き火にも強く焼失しないのが特徴であり、15年の間隔にて伐採する事が出来る又伐採後はそのまま春には新芽が出て再生するので効率が良い

伐採したクヌギは椎茸の原木と成り、計画的に間引きをして行けば、椎茸の原木は毎年確保出来 経済的な効果をももたらす。又クヌギ コナラは薪材としても堅木であり火持ちが良く、焼けのこりの炭は又木炭として再活用しても、火持ちが良いので貴重な資源である。

最近ではガスや石油の科学燃料の普及に於いて、薪で焚く事が減少した。

昔の人はよく考えたもので 循環型の営農方法を取り入れ、自然にも無理のない生活が営まれている事に対し 関心するし少しも無駄がない。

#### 牧野の利用今昔

クヌギ林と牧場は連なって居り放牧には最適で有り・・・現在は分娩後 仔牛を5日程度で離乳した母牛を放牧して体調を整える、牧場まで10分も無い道のりであり毎日 朝 夕監視に行っても良いので便利である。分娩後 離乳はしても、その後の母牛の子宮の回復が遅れるならば、経済効果は減少する。運動 日光浴で体調を整え 初回発情を早急に出し人工授精をする事が受胎率を向上させるコツでもある又分娩まじかな牛も、近くの牧野に放牧をし監視を強化すれば事故はない。村里と放牧場が近い事で効率の良い農作業が可能である。

#### 昔の放牧体系

昔は一般的な阿蘇での田植えは6月であり、役牛の作業は冬場の田耕「荒耕」等が主であり 田植え時期の6月には代掻き作業が本番と成る。野焼きをした放牧場の原野は、5月の上旬から放牧が可能である。野草はその時期で無いと草丈が伸びてこないのである。使役された牛は、そのまま放牧をされ、朝 再度牧場から引き下し 使役すると言う繰り返しである。何れも里山で放牧場が近い為に出来る事であり利便性に優れている。

前記した様に、分娩間近な牛はこの近くの放牧場で様子を見るという習慣があり事故も少ない事が証明されている。現在も昔も近くの牧場を効率良く活用されていたのだと感心している。

すべてが先人からの教え 知恵であり、現代もその工夫を受け継ぎながら村人は暮らしている。自然と共生しながら、人の暮らしは水田 山里 畑地 山

林 放牧場を一連の繋がりをうまく活用しながら、永年の暮らしの中に固定化され運営がなされている事は素晴らしい。放牧場が近いと言う事が畜産農家に取っては、最大の経済効果をもたらしている。

この地域の草原は、災害をも緩和している、草原の草の根が土壌に力強く繁茂している為に崩落が無い 地域の村々もこの草原に於いて災害から守る工夫が考えられている事も素晴らしい。昭和40年代に拡大造林計画に於いて植林された杉 檜の人工林は、その後の手入れ不足に於いて、昼でも薄暗い状況であり、梅雨時期の雨で流土しているのが現況である。土地の古老は申されていた、「岩鼻 戸下」まで木を植えるものではない 誰が岩鼻まで 将来山の手入れに行く人がいるのか・・・、林道 管理道路も無いのにと 案じられていた。将来木が生長し40年も立てば、必ず山潮が抜けると断言されていた

正しく今回の平成24年7月12日の災害で至所で山崩れが起きた。今後も崩落は続くと判断する。危険個所の伐採を行い 元の草原に再生する事が、村や地域を守る原点ではなかろうか・・・昔の人は理に叶った事を言ったものだと関心している。

北外輪を見る時 野草の草原は小倉上と湯浦上にしか見られない、全てが国の拡大造林計画に従い植林されたものである。この制度を否定する訳ではないが、当時は、木が生長した時に経済効果を齎すと予測されていたからである、世代を見超して植林された山は管理さえすれば収益に成ると見込んでいたからである。世の中の仕組みが変わり、後継者不足も重なり山の管理が疎かに成り荒廃した山が増加して崩落の要因とも成っている。

#### 村の制度

村には目的に於いて、公役が存在する。大きく分けると 村全体で行う行事があり、神社の祭典 河川の草刈り 陰切り等で有る

神社の祭典は部落全体で行われる又河川の草刈りは環境整備等は国の制度を生かした農地水制度の予算を現在は計上し実施されている。又隣保組「自地会」単位で行う作業にと分別される。

#### 陰切りとは

各組から役員が選出され道にはみ出した樹木は剪定がなされる。陰切りとは・・・自己の屋敷より庭木類が公道にはみ出している場合 任命された役員が道に出た分を剪定し整理する事で交通に妨げをしないシステムであり、個人的に木を切れれば角が立つが、任命された人たちが切る事に於いて問題は無いよく考えられた仕組みであり素晴らしいシステムである。

#### 用水路の整備

水田を所有する農家は、河川の整備のために田植え前に行われる井出さらえには全員参加する。毎年用水の河川を守るシステムである。春から収穫時までの

水田には尤も必要な命の水である。

#### 協同水道の管理

村の水道は何れも、山の湧き水を貯水し個人の家へ配送している為に豊富な水が使える。何と素晴らしい暮らしでしょう。

水道の管理は当然隣保組で行う。組長さんが招集し、全員参加で行う 貯水層の周辺の清掃 落葉処理 水道取り入れ口の点検 水道管の破損等それぞれに手分けして作業に当たる。このような作業をする事に於いて、共同の心が生まれ村社会が存在する良い例である。

#### 協同墓地

地域毎に、墓地は設定され管理もされている。特に彼岸前やお盆には墓掃除が共同で有り、祖先からの墓地を大切にす。権利として分家のみが共同墓地を活用出来る制度と成っている。

#### 山の神祭り

山の神の祭事は 毎月16日であり 山仕事をする人達は、山仕事を休む 山の神が種を播く日と言われ 神事と御神酒をあげて祈りだけの行事が行われる この日に仕事をすれば、過ちを犯すと言われている。

#### 鞍嶽さん

牛馬の神様で、4月18日が御日であり、村人全員が朝から御馳走を作り 山の祭場で御祝いをする。家内安全 牛馬繁栄が目的で有り、子供も大人も毎年この日を楽しみにして、明日への栄気を蓄え努力する事を誓うのである。赤と緑の昇り旗に牛馬安全 無病息災 交通安全等を書き入れ祈願参拝する。

#### 風祭

4月7日—7月7日が御日であり、農業の仕事は休み 宮参りを行い 村人は公民館等で風穴塞ぎのお祝いをする。風穴塞ぎの大きな餅をつくのが習しである。

#### 村の制度 2

#### 御願立祭り

7月1日 御願立祭りが村で行われる この事は疫病「はやり病」赤疫 等が村に蔓延しない様に、神事を行い五幣を村の入り口と村の出口に立て厄払いをする行事である。

何れも7月以降温かく成り梅雨も迎えるために「はやり病が」蔓延しない為の行事である。お盆過ぎには御願ほどの行事が行われる。地域に於いては 秋に行う処もある。「おこもり」と言う行事で 村人が集まり神社の境内で手作の料理を持ち込み1年の無事を祈り 酒宴を行う

#### 時雨さん祭り

内牧湯浦には「時雨さん」の大石が2ヶ所あり、汗抜の年は 田植が出来ずに

農民は苦勞する。地域にある時雨さんに水を掛け お酒を振る舞い 願いをこめお参りをしても雨が降らない時は、湯布院の御田が池まで村の若衆が水貰いに行ったものである。水樽は地に置くものではないと、脊中に背負い運んだと言われて居ります。若者が帰ると村人は若者を勞い全員で酒盛りを行い、雨を待つ その後には雨が降ったと言われている。

#### 水神祭り「土用三郎」

河童まつり とも言う 8月の土用に入ると子供達も川遊びに余念がない、この時期に祀りも行われる。水の湧き口を取れたての野菜を供え、野採に足を付け、「馬」の形を作り供える 五幣を立て 御神酒を竹筒に入れ河の畔に吊り下げ、塩を播き川の災難が無き様に無事を祈る。

#### 村制度 3

(冠婚葬祭制度と隣保組)

小地域の共同体の組織であり「農家小組合い 隣保組」があり、この範囲で冠婚葬祭も行われ公役作業もこの範囲で行われる事が多い。

牧道修理「道作り」小地域の氏神様の祀り 上水道の管理 湯浦「簾」組は大観峰212号線下の放牧場の野焼き 各戸2名の出席で野焼きを行う。又各隣保組単位で 持ち山の管理は行う「下刈り 枝打ち 間伐」等

#### 神社の防火対策として

神社の周りには必ず、竹藪及び銀杏が植えてあるのは何故・・・  
防火帯である、 村の守り神 神社は住民の心の拠り所 火災でも焼失したならば、再興には多額の費用がかさむ 隣接から飛び火をしても避けられる様な工夫として、竹藪が敷地内に必ずある。また銀杏は水分の多い樹であり、防火木として永年神社を守って来た。

#### 下便所と 五右衛門風呂について

今でも田舎に行くと、五右衛門風呂と便所がセットに成っている。牛馬は農家に取っては人間同様に大事な動物である、水田の田耕 代掻き 草運搬 等の多岐に渡る作業を消化してくれる。その大切な牛馬を疎かにはされない、牛舎内での事故も発性する事もある。仔牛が親牛の口元の綱に巻かれて死ぬこともあり 親牛が足を綱にまかれ倒れる事もあり油断は出来ない。

農家では、風呂と便所をセットで別棟に作り、自分達が寝る前には必ず牛舎の安全かを確認してから休むと言う習慣がなされていた。

その為の下便所は必要不可欠であり又牛小屋の入り口には、鎌掛けが用意され、突佐の事故の場合牛の口元の綱を切断してやる工夫がされていた。

又牛の口元はガンジョウナロープで繋である為、稲藁で纏れた縄で結ばれ引解き結びが応用されていた。突然の事故に遭遇した時口元を解く余裕がない場合は稲藁ツナの部分を切断すれば良い。畜舎の前に常時用意された鎌掛けは

その様な事故発性の場合の用具でもある。生活の知恵がここにも施されている。

#### 火災防止対策について

五衛門風呂と下便所が別棟で建てられているのも意味がある。薪風呂は火力が強い為に、火災の危険性を伴う、母屋と同様の棟では危険度が高い為に別棟作りが普及していた。村にも太火が何回となく発性し、昔は萱ぶき屋根であった為に、延焼が激しく、飛び火もして火災の拡大を招いたからである。

その後 瓦屋根と成り、防火対策も充実した。

新生活運動が推進され（クド）からタイル張りの（カマド）に変わり火災の安全性は保たれ、現在の化学燃料のガスや石油に移行した

下便所と五右衛門風呂がセットで別棟で活用されている地域は（屋敷）組に多い事も判明した。地域の火災防止の優れた風習であろう・・・

#### 湯浦郷の稲作文化

阿蘇の稲作は約2、000年前からと言われている。西湯浦の陣内遺跡「前田」で調査中に住居跡と共に、稲を刈る石包丁と籾殻が発掘されている、それから約1キロ下の西小園地域でも、最近住宅建設の調査の時に、住居跡と石包丁が出土した。約2、000年前であり、何れも年代が同じである事が判明している。

#### 大観峰の長倉遺跡

阿蘇が9万年前の最後の大爆発を行い、大観峰の小国に通ずる大橋一帯が長倉遺跡で、人類が2万7千年前から住んだと言われ、今も矢ジリ等の土器が採集される。人類は端辺から順次外輪の裾野に下り定住して行つたと推測される。

北外輪山では、湯浦郷のこの里山風景が 有一の世界農業遺産に選定された地域でもある。

この地域こそ、文化的景観に相応しい地域ではなかろうか・・・